

路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

2002年1月1日発行

露 路 宿

第16号

Rojuku

定価500円

露宿

| 表紙写真 | 高根知明 | 目次 |
|-----------------|------------|----|
| 文中写真 | 岡田知子 | |
| 路上の餞け | 富士森和行 | 2 |
| 詩行・暗白 他 | 秋戸 空 | 3 |
| 短歌 | 濱田静夫 | 5 |
| 「夜鴉・小唄!!」他 | 鈴木城頭土 | 7 |
| 露宿酒 | 天津称徳斎 | 8 |
| 天王家の秘出自と系譜に関して | A・S デービット | 9 |
| 山茶花 | 風来坊 | 10 |
| 歌集マルキ船 | 望月大成 | 11 |
| ねんねんころりよ子守唄 | 弓削鴻介 | 14 |
| 人生には星を弱い人には光を！！ | 田代 猛 | 15 |
| 歳月 | 清翠 | 16 |
| 秋雲がお昼を食べたら泣き出した | 只野醉払 | 17 |
| 挿絵 | タートル | |
| 短歌・俳句 | いわせまこと | 21 |
| 五行詩 | 近松雅之 | |
| 時を超える目 他 | 名無しの権平の皆さん | 22 |
| 朝太郎の箱船 | 鈴木克彦 | 23 |
| 感覚 他 | 名無しの権平の皆さん | 28 |
| 湊町より | 高橋美香 | 29 |
| 東京路上ふらり散歩 | 笠井和明 | 30 |
| | 岡田 知子 | |
| おきなわ旅日記～与那国到着～ | 恩田美代子 | 35 |
| はり師いが丸の肝心かなめ | はり師いが丸 | 37 |
| 編集後記 | | 38 |

路上の餓け 十五首 富士森 和行

自立への旅発ち漸くみのらむか新春よ路上の餓けとなれ

(長期化する新宿連絡会の活動を想ふ)

教会の施設活きいきと動き出す路上の魂救ふ対策

駒形の地名将棋の駒よりと所縁しきを知り冬立ちにけり
(浅草駒形、昭和の名人、木村義雄の出身地)

上州風丘麓に立つ観音の微動だにせず天に聳ゆる

初冬の雨に濡れたる熊手みゆ夕べ晴れ行く三ノ輪へ続く灯

花抱え父母に会わむと来る墓地に供物を狙うホームレス哀れ

(初冬の青山霊園にて)

一冊のわが自叙伝に問ひ糺す昭和の道徳亡びしは何故

菊薫る佳き日はありて先輩の眠る九段にわれ老いず来る

命ある限り希望の種を播きゆかむ行途の春の底辺の地に

正しき日本語で働く外人労働者幾人雨の大衆酒場

熊とオペラ一体化の試演あり伝統文化の違和感あらず

春は因みに大地の香り放ちつゝ社会復帰の餓け与ふる

新宿に棲みて久しき時にあるホームレス同窓会よ老顔顯在

(晩秋の夜の炊出し集会に於ける)

梅干しと鮭ほど親しき日本の食材ありて歴史見直す
明け暮れを老いつゝも窓の吾が視野に未だ緑の街路樹の立つ

11月6日、自宅にて





（ユン・ドンジュの詩集名）

今はそういう詩行も描く事すら出来ません

（大日本帝国）の監獄もない・・・？
今にとつて、涙をいっぱいにした

私の心をいとも簡単に
ふみにじりました。〈社会性と云うもの
が・・・〉

でもかすかな記憶のなかには
満天の星空ではないけれど

星空はありました。確かに・・・。

星と空と風と心を

想う存分描いてみたいのです

でもそれすらできるような社会では
なくなってしまったのです

汚れにみちた社会にしてしまったのです

知っています

そういう人たちが

この世界の内を蠹いでいるのです

今はUSAファシズムとナチズムに従つて
日本ファシズム、ナチズムを

（まるで人間・種のように・・・）
（悠然）と（善人）のような顔をして
できなくなつた時代に入つていて
できません

詩を描くとしたら

そんなもんなんですから・・・

かの美しい、空・星・風と詩（ユ

丘の上というのはアスファルト

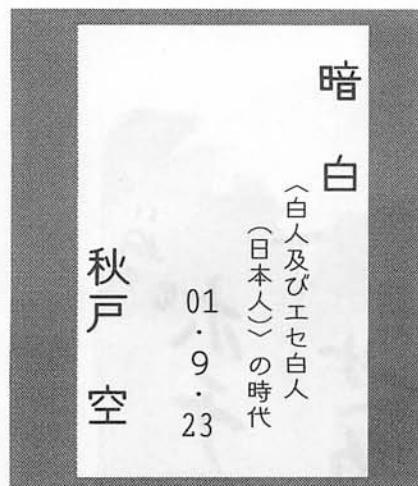
しているのです

街の裡を（カツボ）

で固められたこぎたない
マンションのイメージです
こういう風景ばかりじゃ

詩は描けません、ユン・ドンジュのようないい
詩行を描いてみたいのです・が
ユン・ドンジュは大日本帝国ファシズムの
（監獄）で獄死させられているのです
でも彼は監獄の内でも

あのような詩行美しい詩行を描いて
いるのです私は彼のような詩を書きたい



今世界は真暗だ。かんじんな物は

何も見せようともしない見ようともしない

暗い事は暗黒ではない

暗白(白人本意)の世界なのだ

世界の有色人種が(白人政治)の

奴隸となってしまっている

だから暗いと云うことは

暗黒ではない、暗白なのだ

黒は(人間解放)の表象

とならなければならぬ!

それは(ムツリーニ)の象徴ではない

それはアフリカだ!!

世界貿易機関)は

おお嘘付きのマスメディア

合衆国の南部主義(ファシズム及びナチズム)

この毒素を世界中にはらまき

世界中のマスメディアはこれを

民主主義(民は主人の言う事をよく聞く主義)の名

の基に

大っぴらに喧伝している

押しつける事を合衆国は今に始った事ではない

世界は合衆国の物だと思っている

IMF・WTO

これらは世界中をのし歩き、(金儲け)のため

世界中の(民衆)を犠牲にしている

もう一つの民として(文化帝国主義)が登場する

(民衆)はこの歴史を目を凝らしてみる事

ミサイルと銃それにナバームと映像

世界に(君臨)したいのだUSAここにあり!と

USAに身をすりよせる(エセ白人)ニッポン

新しい、古いヒトラー(USA)どもが

この惑星の世界を(蹂躪)している・・・

これはヒトラーがヨーロッパ中に押しつけた事と

真のテロリストは、誰だ!!

見え見えだ!!

見えているのに見もしないのか

町まちも
畠やに
みんなの駅。みんなの花壇はん。
畠やに守まもってほし、君きみの姿あぶたです。

ホチモタマモセニチナ秋（イニツ）。
ねこの
せめて糞ふんくらべ。紙かみに包ラウタムみ
生なまごみにだしてあげてね（メシタル）。

あき、云々や死ぐずも
うなくなつたら、ごみ箱にね。
すて方上手は別れ上手。?

一庭の千草も夕の音も
枯れてやみしくなりにけり
ああ。秋はなんぞ寂しんだ木手。

小唄

夜鶴・小唄!!

(詩) 鈴木

(曲) 魁夷 明 城頭土

(お座敷・小唄の替え歌です。
ドドンバのリズムでどうぞ)

一、
ホウ ホウ ホウ 夜鶴と
こつちのおにぎり 口に合う。
あつちの炊き出し、美味しくて
お替り二杯で 満足!!

二、
一般人は、小馬鹿にするけれど
ヒトに変わりは、ありません。
死んでしまえば 骨となる。

三、
東京都府に、居るタヌキ。
首相官邸に住むキツネ。
キツネとタヌキの化かし合い。
パフォーマンスの皮—剥げる。

四、
キツネ、タヌキに、夜頭鶴!!
三者合意に成立するならば
ドン底・鶴も、自立して
億万長者も夢でない!!



平成・風刺・小唄!!

(詩) 鈴木 城頭土

(松の木・小唄の替え歌です。
ドドンバのリズムでどうぞ)

一、
金、金、金、すべて金—
金が物云う日本でも
みんな云わぬ世界なら
みんな無一文—九裸!!

二、
貧乏人—達頭—下げ
大金持は—空威張り
錢が不用の国ならば
みんな平等、差別—なし。

五、
日本の難民(主に路上生活者)
救わずに
外国の難民に 数十億
寄附はしたけど
汚職、横領で
雀の涙!!

「私は。(いや)あなた
ですネ!!」*

三、

成金國と、おだてられ
世界中に、大金バラ撒いた
パン、ドン底アリ地獄!!



六、
日本の宗教は醜狂じや
ホームレスのヴォランティアー
キリスト教—だけ
それを知りつ、金だけ集めて
坊主、神官—丸儲け!!

七、
天照—迦迦も泣いている!!
涙も枯れ果て血の涙!!
それが分からぬ日本人なら
死後は無限の地獄—行き!!

八、
外務省だけが
伏魔殿じゃない
その奥底の
奥宮に
鎮座します

そこ—の現人神—
どなた—でしよう。

「捨て台詞」

「私は。(いや)あなた
ですネ!!」*

(*永遠に続く!!)

(*ピアノ・ジャズ・浪曲・演歌!!)

(義老院慰問用?笑)

二、

露宿酒

(*どんな楽器でも可)

天津称徳斎(詩・曲)

（浪曲）*（フリー、節のアドリブ自由）
『流れ、流れて』、ワインの香り—東京
へ—リストラ—された、俺に—秋の風—吹
く』

（唄）

お酒がなけりや 煙草を喫んで
けむりに酔つて 天女の膝枕。
紫の雲に乗りながら
下界、見渡し 男の溜め息。
酒が—遊女なら—出て来て、おくれ
あゝあんゝあんゝ
俺の、俺の、俺の娘
代りの—露宿酒—。

三、

露宿暮しも、三年過ぎた
家庭—も、—忘れて、憂愁—晴し、
心の隅に、隠して置いた
小匣を開けて 忍び泣き
あゝあんゝあんゝ
俺の、俺の、俺の息子
代りの—露宿酒—。

昔、課長と、云われたけれど
今じや、雨、風、防ぐ—宿もない。
見果てぬ夢を、追いながら、
職を探して—ンゝ十回—。
土下座—までして—断わられ、
あゝあんゝあんゝ
俺の、俺の、俺の女房
代りの—露宿酒—。

天

代りの—露宿酒—。

天王家の秘出白 と京譜に關して

A · S デービッド

(皇に非ず)

昨今—古代・遺跡や石器等を捏造した民間の考古学者の話題で、持ちさりでしたが、御同様に、日本史上最大・最高位の天王家の系譜（血統家系図）・捏造軍團はナント—天王家・各・王朝の背後靈!!とも云うべき老猾な大黒幕と、その一味の曲学阿世の大学者?軍團なので、ござります。

同時代に併存した、各微小王朝を唯一、王朝として偽造し、あたかも、數千年前から連綿として存在した如く、過激に在位を大増し、ヨコの者をタテに連結して「万世一系」説をアドバイスする（古代より現代まで同じ家系の）血統が数千年間も絶える事なく流れ続け、それが未來も永遠に続くと云う想定に、デッチ上げられてゐる（現在進行学説?）——天王家が成立したので、ございます。

さて、古代・日本は、主に古代・各、中國王朝、古代・各、朝鮮王朝の流刑地帯で、完全植民地であつた事実は超秘とされ、『民をして知らしむ不可。依らしむべし』の天王家の家訓が暗示して居る。正史からは完全隠蔽され、左翼系の大学者?すら、唯一王朝史観にまんまとマルマルド・ダマされ（現在も、一応—天王家が存在はするが：民主國家なのに）続けて居るの御座居ます。

そう云う見地から思考すると、真正人間の大人の感性の歐米の白人・金髪?学者達が超・愚人の低能・猿人?として日本人達を過去も現在も口には出さぬが眞情では『獸人』—蔑視し、問題にしない、無視する傾向がほの—見えるのは否めない現実なのでござります。

その身近かな実例として各キリスト教・軍團・教團がどのように日本の政財界の工スブリュメント⇒日本の上流階級に大PRし、チャリティー・バザーの収益金等々で、日本人の困窮者達に救いの手をさし伸べても人口が急増したにも拘わらず、戦前同様、キリスト教の信者は日本・全人口の一パーセント足らずに過ぎません!!（戦前も戦後の現在も信者は百万位どまり）将来も、御同様一パーセント前後をウロ・チヨ口するだけです!!

何故なのか?

肉体的には、日本人は『まさに黄色人種で、非・獸人の一人間様!!』なのですが、殘念ながら（地球を支配する唯一の聖靈）聖靈界では、白人の云う獸人が99パーセントなのです。

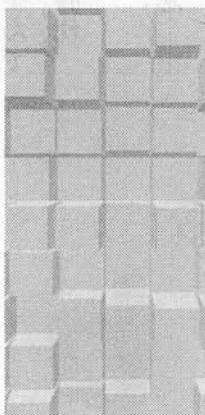
それは、現在の世相—各凶悪、殺傷事件—サド・マゾ・エロ・グロ・ホモ・レズ・ヘアード—風俗サービス業等々を参照すれば理解出来る筈です。

『民をして知らしむ不可!! 依らしむべし』

この天王家の家訓は、現在も生き続けて居ります（外務省が伏魔殿なら、宮内庁が伏鬼殿と云う事になります）

残念無念!!

(続く)



山茶花(さざんか)

風来坊

裏庭に

畠ふくらむ

さざん花に

早く咲けよと

こゝろ打つ我れ

この初冬あちこちに目に映るのは、冬將軍とも花の種類では云はれてる山茶花の花。うす紅色、真紅色、冬の寒さに私達に勇気を湧かしてくれる花の一種である。

私の居住するアパートの裏側に広くもなく狭くもない庭があり数本の樹木が植えられており、春ともなれば姫林檎の花が、桜花にも引けを取らない花を咲かせ九月上旬には紅い小さな林檎の実が垂れ穂る。この姫林檎は食する事は出来ず観賞用として扱はれている。その姫林檎の木の下にテーブルと椅子を備え、その傍に黄色で甘い香りがある小さな小花の咲く金木犀の匂ひを背にしながら、朝な夕な、過去偲び現在の自分を見付め乍ら生きているのではなく生かされていると云う事に感謝して食事をしている。夏には、春先に植えた茄子、しし唐の実がなると共に朝顔と夕顔の花が棚欄一面に赤、白、紫といろどりの花を咲かせてくれる。秋ともなれば庭に枯れ葉が落ちる頃になつて日本のざざん花の花が再び私を楽しませてくれる。ざざん花の木にも他の樹と同様に肥料もやり水を与える枝の剪定までして手をかける。人もその通りだと思う。人と云う字も持ちつ持つれとなりたつているように、花もさう己の力では花は咲かないものである。現に自分が人に何かをし

た時よりも人に自分が何かをされた方が嘴みしめるのではないか、植木も花も盆栽も孤独な私は家族同然の気持で日常生活を営んでいた。矢先、私の思いが通じるのか期待通りに私の心をなごませてくれる。朝、目を醒ますと必ずベットの上から窓硝子戸を開け窓ゆく風と共に、お早ようと声をかける。今日もようろしくと樹木が囁いてくれるのかの様に思え起き上り樹木に水を与える私の一日は印を押した様に定期的に始まる。花と接することは人生のもので花は時には希望と勇気と夢を与えてくれその夢を神よりも私よりも花に託したいと願う。私の描いた夢はいつか必ず実現するに信ずる。

私が放浪中、ざざん花には忘れられない思い出がある。大阪西今宮駅、俗に言う愛隣地区釜ヶ崎から東京まで帰るだけの目的で僅かな金を持ち京都、大垣と来たが、その先はどうにもならず名古屋からは、その地の市役所、町役場の福祉を訪れては、ある市は旅費として五百円、千円と貰ひ、ある役所では一区間か二区間の乗車切符と乾パンを貰ひ乍ら次の福祉を尋ねる。この保ではいつ東京までたどり着けるのか淋しさを感じ乍ら、もう歩くこととさえ失ひかけ静岡市に着き、福祉事務所で沼津までの旅費として千円札一枚を受取り役所後にしてさまよい着いたのが駿府公園であつた。空腹を感じパンと牛乳と煙草を買ひ疲れた身体を公園の一隅のざざんかの植え込みの中に捨て、あつたダンボールを敷き坐り込み只ほのかな夕陽を浴びながらざざん花の樹木と樹木の間に寝込んで了つた。

何時経つたろうか私の頬に山茶花の花片が

落ちその感触で我れに返つた。見上げると空には、星がきらめいて初冬の風が身に耐えた。パンと牛乳が、土の上に転がつておらずそれをむしゃぶるが如く口元に運ぶ。歩き疲れ神経疲れで食する事を忘れていたのである。偉ひにも樹木の間にいたせいかさほど寒ささえ感ずることなく僅か乍ら自分の体温での土の温りを感じる。ポケットから煙草を取り出し暗闇にライターの灯りが俺びしく煙草をふかしたせいか心に落着きが出来、朝まで野宿だと自分に言い聞かせ寝つかれぬまま朝を迎えた。その時に再度目にしたざざん花の鮮やかさその美しさが感無量で、一と晩私を守つてくれ有難たうと心の中で叫びながら、何度も何度も振り返り返り清水まで力強く「ざざんかの宿」を口ずさみ乍ら歩いた。福祉から福音えと渡り歩き、念願の新宿に着いた。でも宛ない境遇は変ることのない保、新宿連絡会の支援者と知り合ひその温たたかい支援のお陰で野宿生活から脱出し生活保護を受け七年余りその間二度も生活保護を打ち切られた。

こうして花を見、花と語り、良き支援者と知り合ひ、舫の会では、数多きの仲間、その上、この度四ツ谷おにぎりの会との出逢い、私は世界一の偉せ者である。明日にでも咲くだろう、一輪一輪の蕾そのものが、仲間、支援者達の面影となり「お互い頑張ろう」と叫びかけて私を励ましている。私も、頑張るのだと、誓ひ、ざざん花よ、ざざんかよ、と心で感謝の意を唱えながら…。



忍者三上 総監
ホンチヨの秘密
もれゝの水 公安課長
袖の下 受けてはならず 浅警と
ホンチヨの秘密
もれゝの水 アーチストとて
大成 大成は間抜けとん馬のお人良し
裏の分け前 安く使つて
くれた事なし たつた七千

馬子 お尋ねの星にてあらばいかせむ
宿なし馬人 明日の行方は
いざとなら行くはアラブか コリアンか
お里帰りで 大成
オウムなるやも

乙姫 金欠でセンセこの頃 足遠し
サツの袖下 サツの袖下
チヤリンチヤリンで 馬子
あなた、悔し サツチヨのデカはシミツタレ
百万ドルを たつた七千

大成 酒飲んでマンモス城へ千鳥足
たれ込み一發
馬も大虎 忍者三上
たれ込みは断じてならず 君子なる
君は危き 橋を渡らず

大成 すっぱ抜き サツとやくざの受渡し
すべて丸見え
カウンタの椅子 忍者三上
やばきなり サツとてメンツ
君に仕返し 明日はお繩も

路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

乙姫

まことかな デカが値づけの百万ドル

何でセンセは

いつもビンボー

馬子

金持てばセンセたちまち 暴れ馬

ビンボーさせて

音なしの術

忍者三上

云うことが聞けぬとあらば打つ手あり

我に考え

君もお覺悟

大成

やりたけばどうぞお勝手 こちどらも

サツのやり口

すべてばらし屋

大成

いかゞする 忍者三上がお待ち伏せ

逃がすまじとて

ストーカーして

ボリ公

逃げるべし こゝにて我が見張番

早く行かれよ

反対の側

実名を出せば即刻 お繩とて

ストーカ三上

イチヤモンをつけ

キとて甘く見たれば大やけど

捨身の一戦

サツは火だるま

馬子

キ印にやらせのスペイ 事ばれて

警視総監

ついは詰め腹

飯のタネ スッカラカンのお召上げ

元刑事

袖下七千

あらぬべし 首がとぶのは三上なり

とかげの尻尾

バッサリでチヨン

鍋の蓋

誰が見ても一目瞭然 マルキ舟

明き盲では

忍者三上は

元刑事

マルキ舟 承知の介でおシナ書き

ブラックリストは
キ印の項

雨の中 遠路はる ド 御苦労も

そんなたわけは

電話一本

おどしには断固屈せず 実名の

まずは一号

ポケの三上で

マンモスの間抜けボリ公じゃないけれど

やれるもんなら やつてみなとて

実名を書いてお繩はそれもよし

ベンの刃は

ムシヨの中でも

大成

やめさせよ いけしゃあ → とストーカー

見ての見ぬふり

何の浅警

御勘弁 サツの忍者は手が出せず

心ならずも

これがポケサツ

浅警は事実知りつゝほゝかむり

忍者一匹

手も足も出ず

名ばかりの法外国家はどこの国

治外法権

サツの忍者が

バツクには頭にJのCIA

強き金町

弱き浅警

浅警は人権感覺　まるで無し
忍者野放し
やらせ放題

留置場と中村病院　分れ路

死に神の影

あり得べし　五林お縄にサツの罠

同志原田も

同じ裏の手

傷害で五林が逮捕　いざ出番

一筆参上

サツに仕返し

誤報にてとんだとばちり　浅草署

恨むな、罪は

サッチョーのワル

さすがなり　おつむパーでも悪知恵は

天下一品

ポケの三上は

浅警は詐欺師三上を逮捕せよ

犬にも劣る

権力の豚

スペイにはビンボさせるな　錢使え

シミタレ野郎が

巡りウロチヨロ

スペイとてゼニコ使えばおつき合い

ジャンジャいたゞき

酒も馳走も

錢持たぬノーナシ野郎はお断り

ヒジ鉄一本

お仲間もポイ

大成は飲めば支払い　ドルと元

シミタレ野郎は

いつもつけゝ

弁明は今さら効かず　三上殿
結果がすべて
君は死に体

五林とは二人そろってマルキ舟

相々傘で

明日の行方は

国松を射ちし犯人　捕まらず

三上レベルの

ポケのデカでは

馬子

事あらば自ら処せよ　竜宮は

手助けならず
外にポケサツ

組織とは徒党を組まず　狼は

闇う時は

常に一匹

マンモスでデカがゲラ　腹抱え

三上の嘘も

ついにこゝまで

目には目を　歯には歯になら嘘つきは

嘘には嘘で

お返しは倍

ねんねんころりよ

子守唄

(一) 別れが辛いと、泣き泣き言つた、
愛しいあの子の、形見の小芥子、
あの子は病氣で、死んだけど、
小芥子の胸に、生きている、
ねんねんころりよ、ねんころり、
あの子が唄つた、子守唄、
風吹く夜は、唄うのさ。

子削鴻介

(二)

俺等が東京へ、旅立つ夜は、
涙で濡れてた、あの子の小芥子、
あの子は帰つて、来ないから、
小芥子は独り、まちわびる、
ねんねんころりよ、子守唄、
今夜は凍れて、冷たから、
あの子も独りじや、さみしからう。

(三)

形見の小芥子は、湯の町小芥子、
あの子に良く似た、可愛い小芥子、
二度とは逢えない、悲しさを、
小芥子に語る、子守唄、
ねんねんころりよ、ねんころり、
あの子が自慢の笙の笛、
聴かせてやるから、ねんねしな。

人並には星を、 弱い人（弱者）には光を!!

田代 猛

二年振りに、石神井公園の池の辺に佇む。宿二号に「一時」の題名にて記したあの頃の事を想起する。「泣きなさい、泣きなさい、声を上げて泣きなさい」。孤独感で風にそよぐ一片の葦みたひな空洞感でやり切れなかつたあの頃の事。そして一羽のハト君と一時を過ごした去る日。

夕暮時の想出を。そして病に倒れ、意識不明、四十数日、集中治療室（ICU）二ヶ月、個室三ヶ月、山梨県春日居リハビリテーション病院二ヶ月、病のと聞ひに明け暮れた日々の二年有余でした。

私の好きな言葉に「最澄の一灯照隅」と云ふ言葉があります。ひとりが照らせるのは、一つの隅しかない、私はこれに「万燈照國」と云う言葉をつけ加えたい。よろづの人がみんな灯りをともしてこそ皆が明るくなり、ひいては国も明るくなるようだ。

民主化や自由化が進めば豊かな公平、公正な社会に近づく半面、固有の文明を壊して、弱肉強食をもたらす影の部分があるようだ。弱い者は死んでしまえと云ふ事になりかねない。そんなことを思ふ。今の社会は、現代の日本は正にそれが現実の日々になつてているようだ。同時に

テロと連続の報道です。国会でも、テレビでも、テロの討論の日々です。イスラム教世界とキリスト教世界との対立、私には解りませんが、その根源的な問題はテロの背景にある貧困の克服そのものにあるのじゃないの。誰も怠けているわけではない。優れた働き手でも仕事を失つて行く、そして死と向ひ合つて行く。新宿公園の青いビニールテントで暮す人々「生きる」「働く」「暮らす」ことが統合化されて始めて人間として生まれた意義があると思ひます。

ホーリーレス自立元の法案が今国会で、自民、民主党共同提案で提出されるとの新聞記事が伝えてゐます。ようやく政府も重い重い腰を上げたように見えます。ただ総合的な施策を実施してもホームレスによつて公園、道路等を利用が妨げられる時は管理者が必要な措置をとるとの規定が明記してあるとの事、それは排除のお墨付きをあたえることなりかねない懸念も考えられます。法の整備も必要ですが、要は政治家よ、官僚よ、頭や心を洗ひ流して弱者に光りを与える政治が必要じやないのでせうかと、つくづく考えます。

「捨てられし民になるな」「棄民になるな」人間だもの人間だもの

十一月八日

石神井公園池の辺で夕暮時

想ひにふけりつつ記す。

追記

「今日十一月九日 公明党の民主党元の反駁でホームレス自立支援元の法案、今国会提出を見合わせるとの報道、誠に政治家屋さんは政治の道具に人の生命を考えてゐる。憤りの念でいっぱいです」



朝の冷えた風と空氣で、目が覚めた。余りにも、良い天氣であつたので、窓をしめわされて、ねむつてしまつたのだ。

その日は、そうかいだつた。故里を飛び出して、もう十五年以上がたつというのに、いまだかつて、芽のない、人生の谷間でもだえくるしんでいる馬鹿な男である。

その間、愛した女もいた。恋も何回となくして、失敗した。ある女と知りあい、その女を愛した。

名前は、K子とでもしておこう。知り合ったきっかけは、キャラードだった。店に入るなり、みょうに意気投合してしまつた。それから、俺は、女として

あの灯り点りはじめたかえり道
水原の宿に温くもりさそう
野辺おりませた後に空見れば
誰れにも告げず姿遠のく

短歌

当に、つらかった。本
テーブルの上には、俺の大好きな故里の料理をいっぱいならべて、手紙がそえてあつた。
帰りたいな、故里に、でも帰れないもんね、素敵なダンナ様と一緒にだからと、両親にいってあるからね。

(完)

妻としてK子を心にきどみ同様した。それからの毎日が夢の様にすぎざり、別れがやつてきた。

K子の作る、料理は、とてもおいしく、故里の味がした。俺が一番悪いのだ、仕事もせずに、何んにでも手を出して失敗して、借金をつくり、ギャンブル等に対しても金を使う日々のくらしに、K子はいやになつたのだとおもつた。

別れる朝は、つらかった。本当に、つらかった。本



迎春
今年こそ
幸多き年にひよう

「ホームレス自立支援法案」継続審議扱いが決定。力及ばず…。が、今年こそはと冬の誓いをたてています。制度政策要求、対策改善、自立支援、廐急救援、相談活動、ゴミ掃除まで、今年も路上の事なら何でもやります新宿連絡会。

新宿連絡会

111-0021 東京都台東区日本堤1-25-11 山谷労働者福祉会館

☎ 03-3876-7073 / 090-3818-3450 FAX 03-3876-7073

ホームページ <http://www.tokyohomeless.com>

メール shinjuku@tokyohomeless.com

<カンパ金送り先>

郵便振替口座: 00170-1-723682 「新宿連絡会」

*カンパ物資は日曜指定でお送り下さい。

秋雲がお昼 泣きだした

只野酔払



たす63たす13は84だからと。そうか、84才か。心臓の悪い母だから、いつも体には気を使っていたから、まだ元氣でいるだろう。しかしなく。いつまでもあると思うな親と金か、たしか去年、2月25日に顔をヤケドした時、新宿区役所で調べてもらつて、一番下の妹夫婦と一緒に住んでいることはわかっているのだが……。

改めて。

今日は、11月3日、10時に所沢集合、武藏横手から物見山、日和田山歩いて高麗駅に出るハイキングだ。AAは清瀬、それからと。うん、そうそう、誰が来るのかなあ。天気が良ければ：そうだ、雨が降つたら中止なんだ。こうはしてられない。と、布団をはね上げて立ち上がつた。窓を開けた。まだ暗い空は泣いてはいなかつた。うん、これなら持つかな。天気予報は昼から雨だといつてたから、とりあえず、所沢までは行こうと決めた。改めて。

テレビをONにした。いや待てよ。行くんだから弁当を作らなくちゃ。

テレビOFF

まずはあじわいごはん赤飯に数ヶ所穴を空けて、レンヂに入れ

て、タイマーを2分と。

昨日のうちに、玉子焼と、イカの丸焼きをチンして机の上においてあるのをタッパーに入れて。

冷蔵庫、冷蔵庫、トマトとナス。面倒だからこれは一つのタッパーに押し込んでしまえ。

チーン。

おつと、できた。これは少しさましておこう。お弁当は熱いままで容器に入れるといけないことはわかっている。お弁当作りもす

つかりなれ。あれえ。もう6時になるよ。テレビ、テレビ、と、12チャンに

目が覚めた。百人町のアパートに住んで5ヶ月になるのに、力一テンのない部屋は暗い。マクラ元にある携帯を探し回した。何時だろう。うん、目がまだぼんやりしてよく見えない。なに、なに、うん。あらあら、目をパチパチ。今日もやはり5時5分だ。今日はーと。すこしづつ頭がすつきりしてきた。でもまだ左目がぼやけている。

ロダンは目が悪い。特に左目の視力は0・02、乱視もひどいから左目だけだと本を読むことさえできない。生まれてもなく視力のない事に気付いたお母さんが、毎日毎日眼科に通つたそうだ。背中にはお灸のあとが残つてているのだが、視力回復のためのものだそだ。

そうだ、お袋はどうしているのかなあ。10年近くも連絡を取つていない。生きていれば、えと、大正6年生まれだから、8

して。と、あれえ。聞碁はどうした？？？。そうか、今日は土曜日だった。では天気予報だ。うん、秩父地方は東京より降雨の数字は小さいなあ。午前中20%、午後は50%か。今日のハイキングの仕掛け人は雨が降つたら中止といつてたけれど、その時はその時。

昨日のミーティング場では、今日の天気が話題だった。三人行くといつてたなあ。ステキな女性の仲間に刷り上がりつたばかりの露宿を手渡した。9月23日のフェローシップの話の書いてある露宿第15号はちょっととした記念だ。自省館に9ヶ月間お世話をなつていた時、いつもバンパー（ビリヤードの一種）をしていた、そして約4ヶ月間、南多摩地区を中心と一緒にミーティング廻りをしていたタートルの絵の作品がロダンの文と一緒に載つている。ロダンはタートルの絵が好きだ。彼の絵が、一人でも多くの仲間に目に触れるのは、タートルのみならず、それを見る仲間も飲まない力をつけることだろう。

ロダンは11月2日金曜日に面接があった。来年3月までのパートの仕事だ。勤務時間は9時から16時、土日祝は休み。時給850円、7時間だから、1日5950円になる。11月8日（木）から勤務することが決った。お酒を飲まなくなつて、生かされていられるロダンが、これからどのように生きるのか考えていて、飲んでいる時は60才になる前にはこの世にはいないと思っていたのに、こうして飲まずにいると体調が良く、この一年半、風邪ひとつかないし、目が悪いこと、右耳が聴こえないこと以外はどつとも悪くない。もしかしたら100才を目指せるかも。急に老後を考えようになつた。明日はロダンの問題だからと。そして福祉に 관심を持つた。

思ひたつたら吉日だ。決めたら徹底的にやるのがロダンの得意技だ。どんな障害があつたってなんてことはない。とにかく福祉



関係の資格を取れるだけ取ろうと決めた。

病院や、福祉に関する仕事の面接に通い続けた。採用されないとわかつていても面接に行つた。そして、少しずつ、福祉の事を理解できた。そして思った。まずは、お金にならないことから始めよう。ボランティアがある。ボランティアを通して福祉の勉強をしようと思つた。新宿ボランティアセンターで「はじめの一歩講座」に出席することから始めた。そこで知つた「新宿ボランティア・市民活動の日」宣言のなかに、5つのアピールがあるので、ここに転載したい。

1、ボランティアはまちづくり、地域づくりの主役です。人と

人とのつながりを大切にします。

2、ボランティアは特別なことではありません。身近なことから始めます。

3、わたしたちは、みんな、必要とされています。できることを自ら責任を持つて行います。

4、ボランティア・市民活動には、新たな発見があります。ひとりひとりが勇気を持つて、一歩を踏み出します。

5、ボランティア・市民活動の楽しさをより多くの人に伝え、活動を広げます。

「ボランティアふれあいまつり」が11月18日にある。それに参加する事を決めた。ボランティアは生きる力を増大させることだ。忙しい中でも、腹の底から笑えるようになった。服を着替えて、リックを持って、傘を忘れずに。部屋を出る三つの確認。火の元、電気、鍵、の三大丈夫をして、部屋を出た。8時丁度だった。足は都営大江戸線東新宿に向つていた。大久保通りに出で、左手に行くと、一つ目の信号がある。それを渡ると、左手にa m p mがある。右手に180円ラーメン点、5／5がある、何度も食べた。100mほど行くと左手にドンキホーテがあり出た通りが職安通りだ。

すぐの信号を行くと、左に向う。ほどなく右手の西新宿教会を過ぎる。通りをはさんで、いつも食材を買ってゐる赤札堂がある。

まもなく東新宿駅に着く。階段を49段、右に90度曲つてまた45段下る。10m程行くと右に折れて、20m先が改札口だ。いつものおじさんがいる。おはようございますと挨拶をして、ほとんど一日

4回はこの改札口を通るから、ここ駅員さんはすっかり顔なじみだ。最近はどちらともなく挨拶できる。部屋を出て、一番最初に声を交わす、さわやかな今日一日の始まりだ。

都庁前で光ヶ丘行きに乗り替え、練馬で西武池袋線、あとは所沢まで一直線。

所沢到着は9時30分だつた。

一番初めに顔を合わせた仲間はその奥さまと一緒にいた。その奥さまにロダンですといつて初対面の挨拶をした。次々と仲間が集う。新秋津のステキな仲間が来た。彼女は、96才まで生きるんだだと逢うたびにいう。そして、若いステキな仲間もやつてきた。

尚、この方は大和なでここで、普段は着物を着てるという。曲つた事の大嫌いな本日の仕掛け人も現われた。前回の参加者が11名中6名、今日新たに参加が6名の12名が出揃つた。

今回の登山は、決して登山とはいえないだろう。高山、大山と歩くわけではなく、物見山375m、高指山330m、日和田山305mな小山だ。ただただ天気だけが心配だ。

やがて、特急が出て、急行が去つて、準急が出発して行つた。

ステキな12名の仲間は所沢発10時の各駅に乗つた。

足元を見るとひとりだけがクラリーノを履いていた。他は全員キャラバンか運動靴なのに。クラリーノなら雨は大丈夫だからとの事のようだ。

何人かの仲間に露宿を差し上げた。列車の中でそれを読んで9月23日の楽しかった事を思い起こしているようだつた。そして目

路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

的でに着いた。武藏横手駅に着いた。

改札口を出ると正面にトイレがある。空を見上げると一面雲だ。

しかし、仲間の顔は晴ればれとしていた。

せせらぎを聞きながら杉木立の道を歩く。30分程歩くと五常の滝に着いた。高麗一族の伝説のある清冽な滝と西武鉄道発行パンフレットに書いてある。そして、ひと休みしたら北向地蔵を経て物見山へ。尾根づたいの奥武藏自然遊歩道を進めば素朴な駒高集落から日和田山へと至ります。変化に富んだファミリー向けのコースですとある。

小一時間も歩いたろうか。北向地蔵に出た。天気が良ければ見えるはずの奥武藏、奥多摩丹沢の雄大な景色がぼやけていた。いまにも泣きだしそうな雲が広がってきた。13時丁度に物見山山頂に着いた。ここで遅い昼食となつた。今日もキレイにできたお弁当を広げて少し多めに持つてきたナスの漬物とチエリートマトを仲間と分ち合い、ステキな仲間の贈り物をいただきながら談笑していたらボツリボツリとやってきた。晴ればれ仲間たちは雨だと叫びながら、またたく間に後片付けをしていた。用意は周到、晴ればれ仲間は手早くカッパや傘を取り出し、足を痛めた仲間をかばい合いながら、雨にけむる巾着田へと高麗山へと、晴ればれの仲間の固い結束は、ほどけることなく、ゆるむことなく、すべり易くなつている鋪道をスリップすることもなく、着実に歩み続けた。



短歌

空

解き放て
意識

雨

うとまれてけり石のごと生きつぎて

妻持つ夢はいつか消えゆく

めしだねになることもなき歌こねて

親方家族のわらいをあびる

しばらくはもうしばらくと思いつつ

今日のこの日もうめきて生きる

折り合わぬ人夫ぐらしの日を重ね

どうにかこうにか今朝も足袋はく

夜八時すずめなみだのデズラ受け

いかりふつふつ耐買ひ走る

空に向けて

一足ごとに
遮るものは

歩きづづける

一足ごとに
力が生まれる

冷たい雨に
負けないよう

奴は毎週
土曜の夜には

予約殺到
ぜってえ

生きるために
負けないよう

生きるために
何をかい

生きるために
優しくなつた

誰のせいでもなく

ありのままを

拒否しながら

生きるために
何をかい

生きるために
優しくなつた

誰のせいでもなく

ありのままを

拒否しながら

週末

歩きづづける

一足ごとに
力が生まれる

冷たい雨に
負けないよう

奴は毎週
土曜の夜には

予約殺到
ぜってえ

生きるために
何をかい

生きのために
優しくなつた

誰のせいでもなく

ありのままを

拒否しながら

生きるために
何をかい

生きのために
優しくなつた

誰のせいでもなく

ありのままを

拒否しながら

まこと

俳句

極寒や足袋の底からのぼり来る

雪もよいダムの飯場へ出張す

極目や峠の飯場の灯は早し

着ぶくれし背中を丸め馬券買う

凍て土に土工の気がいツルを打つ

五行詩

近松 雅之

東京の冬
北の者には
ただ寒い秋
南の者には
辛いだろう

冬

冬が来たた

背中は丸めない
抵抗の

月 光

月の下で

踊った

黒い海

音の稻妻が

闇夜に光る

迷 路

私を唯一

苦しませるのは

あなただけで

偽たせるのも

あなただけ

時を越える目 '01.12.2

お金や物に目がくいみ、見えてくる客観的あたり
まえの社会、程度や次元の違う人々

しかし主観的に生きている人も少ないけれどもと思ふ
自分自身でもどう生きているか、わかるない世界

のんびりタバコにのんびりに。

カゼのひんてどう？

山谷でって人間たそきという言葉

田舎さんはなぜか憎めまい

人生ってどんな味しているんだろ

そして~~何~~人によってその味がどれぞれ違うの？

私は今までたのむは最近料理できなくなつたからです。

料理じやなくて生活

なぜかあいい人生を作るために

じとレシピを譲って作るよりも、

この中の味見こますいまざいとはんだんしきって

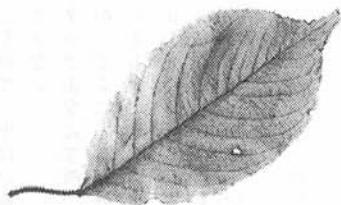
それでわりにして料理を上手く。

だからこそ、私は思つ。

えいりようはまずかたんじやねござるか。

もじたかってまざい物好きになれるかな。

レイ





二、朝太郎がやつてくるの巻

三 神を呪うの章

我々は渡海船に乗ったダラク人ふだらく山の馬鹿音菩薩サマのおられるお淨土へと寄つてたかって船出させられたるお聖人達千葉県のキ印漆をい出て大海にさすらうこと三十日

渡海船とはキコエはいいが昔の漁村じゃ六十を過ぎたオイボレ坊主には食わせる予算もないし足踏みしつつ葬式や法事で食わしてくれという若僧の頼みのためにも補陀落山に行つて下さい我々だつて六十爺を山に捨ててるんですからと

体よく追つ払われた形の成仏船櫓もカジもないほんの小舟の上に厚い板をびつしきり打ちつけた四角な木箱を乗つけて東西南北に小さな鳥居を立てて海の流れのままに捨てられる

木箱の中はまつ暗一度入つたら最後出られないそれが人々の信仰の対象にもなるのだから有難いが姥捨山と原理は同じなので中にいる者はそんなにアリガタクない

フダラク山なんて所一体どこにあるものかどこにもあるが下らない山と人國中青山いたる所にありと言うぐあいに山と墓場はどこにあるが一

今はむかし昔はいまイマはイマ今も昔も渡海船の底からは狂つて吠える人畜の声

船はアテもなくハテもなく大海原をドッ

パンザッパンザザーススと走るけどハテもなくアテもない航海に大切な汚物ガスはそうも使えない

速度は六ノットのよたよたスピードすべてアクマ様のオミヂビキと潮流と風につづきまよい走つてるだけの墮落船実は二十万トンもの汚物を積み込んだとはいえ発生する発酵ガス量などタカが知れたもの一昼夜走つて五十トンもの重油を使うタンカーの供給にはおいそれと応じられるものではない

嘘だと思うなら二十万トンの汚物エネルギー計算をやつてみれ微量なウンチエネルギー発生量を朝太郎の目に示してみれ

夢みる青年の理想だ恋に酔い痴れる娘のアコガレプロレスごっこで小供がやるバックドロップのようにはケン極まりないのがアホー船一夜ヅケの試験ベンキヨウのように計画性のないギヤベッジ船そのうち海の只中に止まつてしまふだろう

何しろ何からカニまでカツタルイかつたるく言うもカツタルイ安酒の二日酔みたいに空も海も吹く風も切れ目のない雨までが空しく灰色船も乗客も④のカンブもカツタルイエビカニはめば口びるかつたるい秋の風(注)そんな中婆婆ではモッパラ氣違い博士の異名をホシイままにした某科学者が計算で炙り出した洪水理論が発表されたそれによると大洪水は北極の地下火山大

ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO

爆発のため 水河が溶かされたと同時に
もの凄い水蒸氣と二酸化炭素の上昇の
ため大雨が降り 他にも地核変動や潮流
の関係から 気圧変化を起し大雨大嵐大
水となつたものだと説明したが
多くの者は信じない 神々がやつたとしか
考えていない 将来に夢なく希望なく
嵐と雨の間の中に 身も心も触ばまれて
息をしてるだけの 昆虫の如く目玉をグ
リグリさせている者が何を信じるや
自分も信用できぬから人も信じない ス
ベテの責任を神に押しつけて 自分は青
くなつてゐる

家庭ホーカイ 自己ハカイ ロンリの破綻
生も死も無視し 国家の尊嚴も個人の
権利も 世界のカンセツまでバラバラに
して 思考すら拒否し 食と放糞以外認
めぬ者に信用できるのは 神を呪うこと
サンザンお世話になつた^④のカンプを
恨むこと
知に毒され 感情に惑わされた手合いが總
てを神のせいにして 不平と文句をうめ
き出す

「神がへん曲げようと鼻曲げようと 人は生
きるようにして生き 死ぬようにして
死んでゆく」

金持ちケンカしないし 貧乏人は腹が減
る 普通人は常にイイ加減に生きて
る

「神々は魔神と共に生きて いるくせに 魔神
の目と権力を盗んで性慾りもなく
罪意識とやらで ああせえこうせいと

人にできそうにないことばかりを強
いて ザンギ懺悔とイジメぬき
地獄の恐ろしさを極度にキヨーチヨーし
て脅やかす 我々の生活は暗くなるば
かり 人を苦しめ自らも苦しむサディ
スト兼マゾヒスト

神なんか 手前の最後の審判とやらで手
前の罪を裁いて地獄に落ちて 永劫に
苦しめばいいので 人のことは放つて
おけ

むしろ世のため人のため 神が罪を被つ
て地獄に墮れば 世界は平和になつて
コトは丸く治まるのだから

ここはひとつ 神が人々のギセイになつ
て死んでくれ 消えてくれ 有知のこ
とばをもつて無知なアクマの心を壘ら
すな

あくまサマはグドン魯鈍の気持で ただ
有り タダ無いように存在している無
用の用

自分だけが全うで正しく間違いなく 人
はみな罪人悪人と信じている 鼻穴デ
カイ元トチギの女刑務所の女看守のよ
うに 脇声で不平を漏らす

わしらといたけりや神棚にでも入つて黙
つて 心ある者のお供えを食べ お賽
錢をもらつていればよい

アクマの進化したもののが神ならば 人が
進化したもののが痴狂人

その痴狂人はゴミのような自分を許すか
ら 神もクズのような己を制し出でく
るな」

「間は悪でも醜でもない 厳肅で静寂でいこ
いの時なのに 神めが区別をつけて
汚ないものに臭いものの悪物を不法投棄
したから 世の中おかしなつちやつ
た 和光同塵を認めぬ神のため我々は
不幸をしょい込んだのだ」

神だけは頼みもしないのに不要な時
にのみ現われて 不必要にヤカマシイ
人が 必死になつて頼む時にはソッポを
向いて 出てきても願いを聞いてもく
れないとせ イラナイ時には必ず現わ
れい出て文句とイヤミを言う

自分だけが全うで正しく間違いなく 人
はみな罪人悪人と信じている 鼻穴デ
カイ元トチギの女刑務所の女看守のよ
うに 脇声で不平を漏らす

痴呆は死なず消え去るのみ（注） なのに
神だけは頼みもしないのに不要な時
にのみ現われて 不必要にヤカマシイ
人が 必死になつて頼む時にはソッポを
向いて 出てきても願いを聞いてもく
れないとせ イラナイ時には必ず現わ
れい出て文句とイヤミを言う

痴呆は死なず消え去るのみ（注） なのに
神だけは頼みもしないのに不要な時
にのみ現われて 不必要にヤカマシイ
人が 必死になつて頼む時にはソッポを
向いて 出てきても願いを聞いてもく
れないとせ イラナイ時には必ず現わ
れい出て文句とイヤミを言う

神よ 魔神のものは魔神に返し しばし
黙考せよ モグラ叩きのモグラみたい
にヒヨコヒヨコ顔を出すなウットウし
い

「我々は地に落ちて 三十倍も六十倍にも実
らせられなかつたトウモロコシ
だが 石の上やらヨモジの中や地の上に
種をマイタのは神 お前じやないか
手前が蒔いた不幸の種を この役立たず

を闇の中に放り出せ そこにはナゲキ
と歯ガミしかないだろう とはナニゴ
トか

悪靈のついた豚の群と共に 人を断崖の
上から落してみたり ソンナ者は生ま
れてくるべきではなかつたと怒鳴つて
ミタリ 神の元に戻ってきた者すら
お前なんか知らないと ワメイでみた
り

自分が勝手に決めた善意で 人々を不幸
に陥し こうした人間が潰れ果ててゆ
くのを見て タノシイ力 手前が作つ
た不良・欠陥品を人に責任を押しつけ
てるではないか

アクマさまは この者を光の中に投げ出
せそこでミイラになつてしまえなどと
惨虐なことは言わぬし行なわぬ

普狂不二 俗聖不二 人神不二 神はア
クマを憎まず同俱戴天 仲よく生きれ
ばよいと語つておられる

「美女に惑わされ 童子にカドワカされ
富檀那にニセ金つかまされ 聖者の姿
に騙され 頭八分に割られた渡し難い
縁なき衆生は我々だ! (注)

死刑台に断頭台に牢獄に 八つ裂き串刺
し股ザキ 百むしりの刑に晒された者
の子孫が我々だ 宗教裁判 魔女殺し
を忘れたか 救いもせず地獄に墮した
眞実を さてきて神さま如来さま この見離され
者 呪われた四つ足の血を体にジユン
力ンさせた衆民非人をどうしてくれる

を闇の中に放り出せ そこにはナゲキ
と歯ガミしかないだろう とはナニゴ
トか

悪靈のついた豚の群と共に 人を断崖の
上から落してみたり ソンナ者は生ま
れてくるべきではなかつたと怒鳴つて
ミタリ 神の元に戻ってきた者すら
お前なんか知らないと ワメイでみた
り

自分が勝手に決めた善意で 人々を不幸
に陥し こうした人間が潰れ果ててゆ
くのを見て タノシイ力 手前が作つ
た不良・欠陥品を人に責任を押しつけ
てるではないか

アクマさまは この者を光の中に投げ出
せそこでミイラになつてしまえなどと
惨虐なことは言わぬし行なわぬ

普狂不二 俗聖不二 人神不二 神はア
クマを憎まず同俱戴天 仲よく生きれ
ばよいと語つておられる

「美女に惑わされ 童子にカドワカされ
富檀那にニセ金つかまされ 聖者の姿
に騙され 頭八分に割られた渡し難い
縁なき衆生は我々だ! (注)

死刑台に断頭台に牢獄に 八つ裂き串刺
し股ザキ 百むしりの刑に晒された者
の子孫が我々だ 宗教裁判 魔女殺し
を忘れたか 救いもせず地獄に墮した
眞実を さてきて神さま如来さま この見離され
者 呪われた四つ足の血を体にジユン
力ンさせた衆民非人をどうしてくれる

のだ

神仏のため無間地獄に墮されていた罪人
共が アクマの錫杖で救い上げられた
我らが姿 我らが面を 神仏とくと見
れ!

神は神糞をタレ 神便鬼毒酒を呑んで
万年生きる桃を食い 泰然自若として
いるのに 我々の薄汚なく狂つた姿は
何んなのだ! 我々の犠牲の上に立つ
神さまよ

「教会が全世界にえばり腐るようになる前は
人はまだ人間らしかった

モーゼだのモハメッドだの孔子だのが出
現する前は 人は苦しまなかつたし大
らかだった 俗人の繩張りを荒すやつ
は誰ぞ

神こそ どこから来てどこへ行くつもり
なんだ 言つてみれ 人にマズイ神の
ことばを食らわして 自分らは一体何
を食つているというのだ 金と権力と
宝石か

所詮 天国なんて地獄があるから存在で
きるもの それすら神が勝手に作った

仮城ならば地獄とアクマも崇めてみろ
我々はマルキ部落よりい出て海を漂い
アクマのエビカニ食つて クレジニア
を目指すバカブリスト達

幸求め逃げ出したアダムとイヴア 神の
厳しすぎる暮しが辛かつたからだ 人
は安易にして放逸なクラシを望むもの
神にもし ヒトカケラの愛があるな
らば 人を苦しめてばかりいないでユ

ルシテみせろ」

「痴人は快刀乱神を語らず ただ下らぬこと
をば語るのみ 下らぬことこそすばら
しい すばらしいこと言う神は下らな
い」

「三軍の師を奪うはやすし 痴狂人の志を奪
うはカタシ (注) 神よ奪つてみせろ
痴人狂人 小供の心を!」

「アクマを裏切る者は幸である そんな者は
生まれてきた方がよかつたと言うアク
マ 離れて行つた者にも お前なんか
知らないと言わぬい心広き主」

「狂つて水を怖がる イエスだつてエ
リエリレマサバクタニ 神はわたしを
お見捨てになられたのですか なんて
言つて泣いたんだ デシ全員に裏切ら
れ ニワトリが鳴く前に三回もペテロ
に裏切られ 誰も信じられなくなつて
三日後に化けて出てきたつて怖くはな
いぞ」

「神の苦恼をつきぬけて アクマの歓喜へひ
た走り」

「イニシエのゼウスに全滅されたかに見えた
我らが巨人族 今日ココノエに復讐す
る力ナ (注)

巨人族は誰あろう 痴狂人の命にて
神の罪で赤ハダカにされた罪人に キ
レイな水に身を洗い ガマの穂綿にく
るまればたちまち元の悪人になると

(注) よくよく教えてあげた大黒天
閻の帝王 閻魔様 その息子はエビ

ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO

カニのえびす様でバルダン聖人ではありますません」「俺は神だと信じて語る狂人なら、偉そうに何やらワメク新興宗教の教祖や人神さまと同じじやないか」と同じじやないか。船にはどんなことがあつても起こつてもエヘラエヘラ笑つておられる生き神さまや、ダライバカ十四世ハメラビ教祖その他大勢いるんだぞ。神も仏も裁判官もムヤミに人を無間に墮すでない。地球より重い罪人の命、地獄の底が抜け落ちたら何んとする」「この俺は世界中の女神や女菩薩や聖女と交合しようと思願をたてた。だがおいそれと女神はつかまらん。聖女も自由にならん。そこで夜鷹やパン助ユーユー女達に様々な女神のお面をつけ、て交合始めた罰当り者」

「アクマの三身一体は魔神——アクマ——痴狂人（死ねば惡靈）」「オレタチャ食便方キよ、人のフンを食いつきる。自分の口さえ動いていればよい今生の己の因果が早くも今生の己に報い。クソ船に這う虫を食わせて太らせた工ビカニ食つて身すぎ世すぎする輩さ」「神につけ込まれ食い物にされた赤死病の仮面者よ、食われたら食い返せ。けどよくよく目をこすつて見れば、十字架の後ろにアクマあり、アクマの陰に神がいるからヤツコシイ」

「カニのえびす様でバルダン聖人ではありますません」「俺は神だと信じて語る狂人なら、偉そうに何やらワメク新興宗教の教祖や人神さまと同じじやないか」と同じじやないか。船にはどんなことがあつても起こつてもエヘラエヘラ笑つておられる生き神さまや、ダライバカ十四世ハメラビ教祖その他大勢いるんだぞ。神も仏も裁判官もムヤミに人を無間に墮すでない。地球より重い罪人の命、地獄の底が抜け落ちたら何んとする」「この俺は世界中の女神や女菩薩や聖女と交合しようと思願をたてた。だがおいそれと女神はつかまらん。聖女も自由にならん。そこで夜鷹やパン助ユーユー女達に様々な女神のお面をつけ、て交合始めた罰当り者」

「アクマの三身一体は魔神——アクマ——痴狂人（死ねば惡靈）」「オレタチャ食便方キよ、人のフンを食いつきる。自分の口さえ動いていればよい今生の己の因果が早くも今生の己に報い。クソ船に這う虫を食わせて太らせた工ビカニ食つて身すぎ世すぎする輩さ」「神につけ込まれ食い物にされた赤死病の仮面者よ、食われたら食い返せ。けどよくよく目をこすつて見れば、十字架の後ろにアクマあり、アクマの陰に神がいるからヤツコシイ」

「何んでもカンでもハイハイ言つて哀れな非人、罪人をお助けするアクマさま、逆にイエスとは名ばかりで、常に答えは否定ばかりの腹黒いヤツ」

「土台、昔から、神とは恐しいもの、暴れるもの、凄いものだったはず。それがいつからか偽善神となつた人の命を奪い、天地を荒す悪しきもの。これが古代の神の正体つまり魔神様だったのだ」

「贊悪歌」

すべてはアクママかせデマカセ人生
メシは食いまかせ ウンチは出まかせ
下痢は下りまかせ 吐き上げは上げま
かせ

人は本来アクマを好むものが救いで頼り」「神など人を苦しめるだけ、喜びも報酬も与えぬくせ、契約だけはガッチリ守らせ人をシバリに縛る」

ありもしない天国風景をエサに糞マジメな人を手本に立ててケツを叩くばかりそれに抗したら様々の神罰で消滅させる」

「カソリックは羊の宗教だからいくら殺してもよい。ユダヤ教はキリスト教を迫害したのでいくら殺してもよい。日本人は神道というキヅネの宗教を信じているからいくら殺してもよい。インドは多神教だからいくら殺してもよい。中國・アフリカは多宗教だからいくら殺してもよい」

「悪党をアナ板に上げてみれば、これがみな善人に変わると面白い」

「宗教学は右往左往のシャクブク合戦、世にも見苦しい互の神をケガス親子のケンカノーノー否ダメナラヌ非ずと否定ばかりの腹黒いヤツ」

「神を求めすぎれば憂あり、天国のトクトクキップは期限切れ、運航不能となりました。天国入りは十億人にたつたひとりの狭き門。それを見い出す者に許されると駆り立てる」

「神の上にアクマを許めず、普通人の下に痴狂人をつくらずなのだ（注）」

「(4)のカンブ」こうした荒れし人やら拉がれし者、宗教に裏切られた者を陽気な気分にさせようと、神への怒りを鎮めようと思歌と踊りの芸芸会に忘世界会ロックのリズムにのつて甘いハワイアンで七迷館のパカ踊りなどオッパジメタ大根役者のタイやヒラメの舞い踊り、ただ下らなくエゲツなく時のたつのが長いばかり（注）ゴチソウは何もないやんぬるかな、止めぬるかな、何を出してもひっこめてカツタルイサルマタ脱ツにしかめ面（注）誰が歌など唱つて踊るもんか

そこで(4)のカンブ、切り札のストリップシ

ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO

ヨウに切り換える ガードマンに囲まれた娘の裸踊りに入々やと乗ってきた。何よりも人を生かすものは性 生きる力は性 殖心 汝姦淫セヨ 汝パン助をヤレのアクマの真理 男の欲望は暴力支配と權力 女の欲望はミス・ユニバースと肉体やら知性を求めてくれる者に身をマカスぜいたくな浮氣心に淫壳心 我思うに 誠にアクマの法典こと始め「始めてチンボ・マンボありき チンボ・マンボはアクマなりき 男と女のつかみ合いこそ 幸福ナリ」人々ミルミル力み出し 興奮し出し 血が循環し出す シカミ面にもエミがわき見る目に光あり 喉に生ツバあり 握る血に汗 現実にウチ克トウ 生きてみようと E.T の胸のように命の灯がついて 目の色変えて人はワインワインとやつてくる 船の乗客大喜び アクマの力の前に神の教えなどへのカッパ われ目覗きがありがたい 目醒めたチホウ ハッと思いつく 地下に棲む動物達にもこの喜びをこの感動を抱ち合おう知らせようと地下三階に下りてゆく前途マツ暗な船底に玄牝の谷間 偉大なる門 谷神アクマが芽生えてくる 谷神は死せず これを用いて尽きずと思ひ出す 君子が豹愛するように 痴狂人の黒いユーワツ面にも火がトモル

ヨウに切り換える ガードマンに囲まれた娘の裸踊りに入々やと乗ってきた。何よりも人を生かすものは性 生きる力は性 殖心 汝姦淫セヨ 汝パン助をヤレのアクマの真理 男の欲望は暴力支配と權力 女の欲望はミス・ユニバースと肉体やら知性を求めてくれる者に身をマカスぜいたくな浮氣心に淫壳心 我思うに 誠にアクマの法典こと始め「始めてチンボ・マンボありき チンボ・マンボはアクマなりき 男と女のつかみ合いこそ 幸福ナリ」人々ミルミル力み出し 興奮し出し 血が循環し出す シカミ面にもエミがわき見る目に光あり 喉に生ツバあり 握る血に汗 現実にウチ克トウ 生きてみようと E.T の胸のように命の灯がついて 目の色変えて人はワインワインとやつてくる 船の乗客大喜び アクマの力の前に神の教

みなさん 元気がでて嬉しいですねえ 勇気 と力と欲望がワイできましたネエ 乗客のひとりはこんな謳までモラシ出す 「おまんじゅうはいいなあ むちの女のおまんじゅう バカな女のおまんじゅう 若い娘のおまんじゅうを おしげもなくおつぴろげ おつぴろげ キヤラカラ キヤラキヤラ笑つてる 広げなくともみな見える まるい山には毛が三本 何も知らないバカおんな 貧しく育ったバカむすめ おつぴろげのためだけに十五まで 乞食のように生きてきた そんなおんなが大好きさ」

何をバカなことをタ太郎！ 岩手県の教会の元ボクシ 偉うソウニ 新参者めが一だが 海は広いな大きいな 雨は降る降る酔いどれ船に海原に 船首はスバーッと浮かびズブーッと沈む波にたゆとう夢見船 曇った空にはイミもなく見えはしないが 日は昇り日が暮れて夜がくる 船室は常に薄暗く人の気持は沈んでる

グズ クレージーと初代の変人から数えて二百三十代目に朝太郎 彼こそ真の悪マ権を持つ不常キヨウ菩薩 金剛石の力 タイ決心と勇気を持つ 悪菩薩 朝太郎はホムべきかな」

い詩ですねえ 若い娘は花と華ですねえ でも一少しは心配なのです この力が何か ハカイのパワーになりはしないかと一 御存知船には女が少ない オカマ尻もメツタ にいないー そんなところにムリヤリと登場して来たのが 夕太郎 集まつた人々の前 踊り娘のいな くなつた舞台でトビショーシもないことを叫び出す 目をクルクルさせ大演説をブツ 「アクマは狂人をうみ キヨージンはバカをうみ 馬鹿はアホをうみ 阿房はフヌケ をうみ 脇抜けはハクチをうみ 白痴は グドンをうみ 愚鈍はチドンをうみ 痴 鈍はロドンをうみー キチガイ ハッタリ

(注)は、引用、書き替えたもので、必 要があれば(著作権などの問題)、これ 正式に届ける用意があります。

多くの人の心労と怠慢と涙と嘆願 叱りを乗 て果てて白骨船になつてしまいはせぬか 朝に青顔 夕べに女のハダカを見すぎて紅顔になつた 諸々の悪因業と汚なく臭い中年 共のサエない才才

見えてきた、見えてきた、他人の

物欲的幸せ

知ってきた、知ってきた、自分の

希望的観しさ

俺には彼女がなく、お金もな

才能もなく職も技術も何もない俺。
ああ、そ�だ、心に愛だけは誰にも
負けない、ぐうあるぞ！

01.11.25

感覚。

この人個人の夢として考えら

人々違う、しかし山谷の人は、だつた同じ

ううて人達、弱者、である、

01.10.4

沖縄を出て心して16才で
ヤクザに入りました。

友達死一度のせい死にました。
だつたかがじせい人生だ！！

私は死なない！！

がんばれ！！

我が人生悔いなし！！

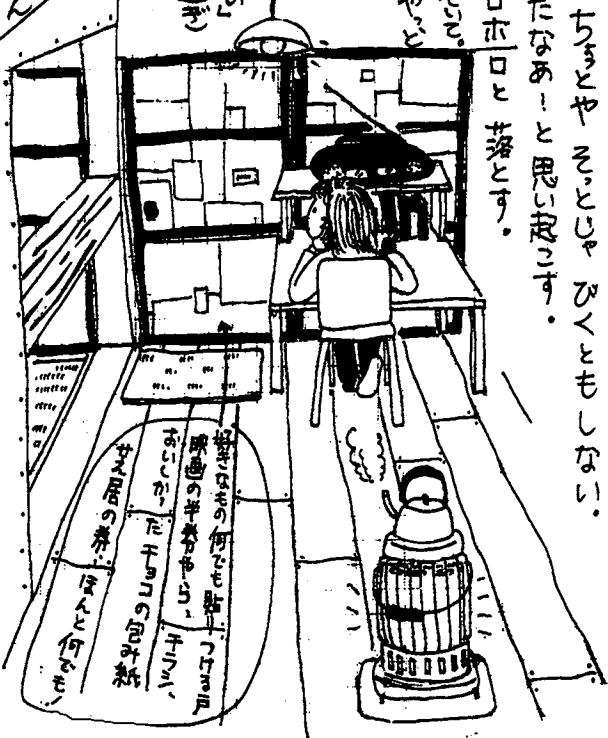
漆田さん

新潟県新潟市で漆器を販売する「漆町」より、新潟市在住の甲斐正一氏が選んでくれました。

漆器は漆工場で作られる。漆工場には漆工場の事務室がある。

漆工場の事務室では、漆工場の仕事の計画や、漆工場の運営のための会議が行われる。

阿橋美香



路上
ふらり
散歩

東京

第16卷

写真・岡田知子

文・笠井和明

「上野・浅草一山谷・吉原」





上野駅、公園口で降りる。

初冬の木枯らしの中、哀愁を帯びていてる筈の上野駅は、あちらこちらで工事中。広々とした横断通路が上野の山と谷底を結び、今や上野駅独特の陰影は人工的に押し隠されている風である。

上野公園を家族連れに雑ざつて散策。ボードワン博士さぞお喜びの事だろう、血塗られた歴史を持つこのお山一帯は、今も随一の市民が悠々と憩える文化公園。ついでにおっちゃん達のテントの数も都内一の公園。徳川所縁の神社仏閣を偲ぶも良し、江戸城開城と彰義隊の上野戦争に涙するも良し、文化会館で名演奏を楽しむのも良し、西洋美術館で絵画を愛でも良し、動物園で世界の珍獣と戯れるも良し、テントハウスを見て現代の社会矛盾を感じるのも良し。蓋し、何でもござれの公園である。

キリスト団体の炊出しを待つ人々が弱い光の中で日向ぼっこ。

精神活動の産物たる文化というものはどこに宿るのかなど不明である。人が居るという場であれば文化的な可能性はどこにでも無限にある。創造や発見も博物館のような中に閉じ込めるから文化が近付き難いものとなる訳だ。

銀杏の実を自分で採って、露天で売るおっちゃんに挨拶を交わし、東照宮へ行く。枯れ葉がハラハラと舞い、参道の灯籠に落ちる。上野の隠れた名所である。

石段を降り不忍の池を巡る。初冬の蓮の景色は死屍をも淨化してくれそうな空白な景色。侘びしい、淋しい、こりや駄目だ、江戸の鬼門だけのことはある。

耐え切れず俗界へ。

一年も瞬く間に過ぎた。漂亮的ながらも、けれど時の流れには抗し得ない事を自覚してしまう年末。噛み締める程の事もなく、惜しむ事もなくただ流れ去った歳月。無駄な事などは一つもないと夢想する若さもなく、無駄な事だけだけれども詮がないと、遙か遠くを見つめている。秋から冬は人を惑わす。

広小路もアメ横も少しは近代化したものの、まだまだ健在。対照的な喧噪を振りまく。何故かほつとする。人の迷いの本質というのはいつまで経っても変わらないものだと感じる。

東西通路を渡り、谷底の街並みへ。

かつて、松原岩五郎が下層社会探訪へと旅立ちしたのもこの辺りか。が、正直者の松原がワクワクして記したような「画図的光景」「棟割の長家」「最下層の地面」は、もちろん今はない。戦災を免れた家が幾件か残っているものの、ほとんどがどこにもありそうな一般住宅。地価の高い東京には貧民窟と呼ばれるような街は疾うに絶滅した。「下町風情」などとわざわざ冠をつけて記さねばならぬほど、そういう東京の貧しき連帯も絶滅した。貧困は社会にとって唾棄すべきものだから、土地のみならず、文化までもが抹殺される。

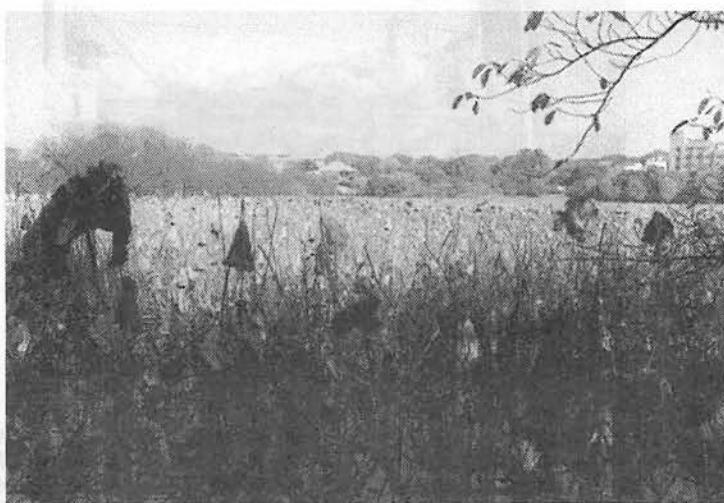
だから現代の貧民は、守られる土地も文化もなく裸のまま辛うじて生きなければならぬ。

下谷神社から浅草通りを渡り、松が谷を巡ると、かつば橋道具街に出た。商売道具博物館のような店々は、リアルかつ滑稽で楽しい。外国人の観光客も笑いながら品々を手に取る。

本願寺近辺をうろちょろしていると、国際通りに出、浅草六区に着く。一時期の浅草の衰退は、庶民文化や大坂的泥臭さを逆手に取った戦略でついに巻き返しに成功した。今や人力車までもが街中を走り、若者も多く訪れる東京の一大観光地。浅草復活に川端先生もさぞお喜びの事であろう。

馬券売場の人込みを抜け、花やしきの遊園玩具を眺め、裏通りから浅草寺へ。活気があるのは馬券予想。みんな昼から酒呑んでワイのガヤガヤ楽しんでる。

馬券売場の人には正月飾りの露天の準備。庶民に愛し愛され続けて来た浅草寺、元旦など凄い賑わいになるのであろう。既



に寺の廻りには店が並び、大賑わい。浅草に来て浅草寺を詣でなればと、手を合わす。庶民寺だけあって威厳もなく、気軽な仏様。ついでに神籠も引くが、雑誌の占いコーナーよろしく読み流す。

人込みを搔き分け仲見世通りを雷門へ。同じ賑わいでも新宿の雑踏とは違ひ、縁日のようで苦痛にならない。

浅草地下商店街で「浅草名物ソース焼そば」を食い腹ごしらえをし、吾妻橋を渡り墨田区側へ。

隅田公園には今は、ロハ台ではなくそこかしこにブルーシートの仮小屋。首都高の下もずらりとテントハウス。川向こうのテラスにも同じく。ここらも上野公園に並ぶおっちゃん達の集住地帯。尤も浅草などは今も昔もと言った方が良いのかも知れない。近年の新宿ホームレス問題と、昭和恐慌時の浅草ルンバーン問題は、その「衝撃」において同質のものがあった。貧民はどこへ行けば良いのか?という問い合わせ都市問題として突き付けられたのである。けれど、その「回答」はいずれも先延ばしにされているが…。

桜橋を渡り、再び台東区側へ。待乳山聖天から浅草弾左衛門の敷地跡を巡り、山谷堀公園に沿つて東浅草から日本堤に出る。いわゆる山谷と呼ばれている戦後のドヤ街は浅草の北のはずれにある。ここは街道筋の宿場街ではなく、戦前どこの街にもあったような労務者長家風の街を政策的に作り変え「保存」され続けてきた街である。在りし日の山谷は浅草の一角の静かな下層居住街としてあった。それが戦後復興の労務者供給拠点にされた事より、浅草文化がこの地から離れる。つまり、街としては不自然な形成史を歩んでおり、それが山谷がおっちゃん達のメツカたりえない所以なのであろう。

とは言え、ここには独自の文化が育つた。都内有数のドヤ街が全国から様々な働き人を受け入れて来たからである。浅草の街が復活したよう労務者の街、山谷も新たな門出の時を迎えていた。

活気少なくなつたいは商店街では、そこらこらでおっちゃん達がゴロ寝。山谷の自負心は本来、ドヤで暮し、働く自負心であつたの



であるが。

土手通りを渡り、吉原へ。

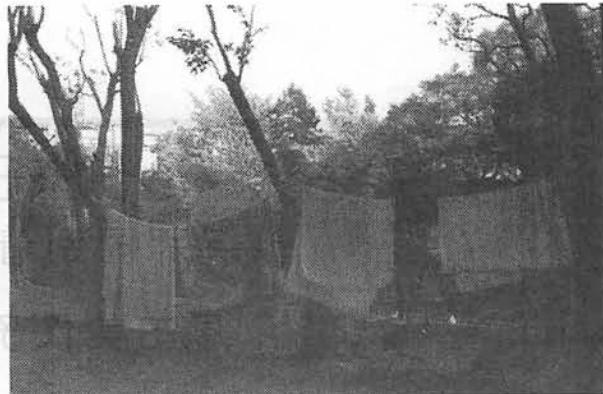
こちらも地図にはない街。かつての有名な遊廓街だが、花魁道中も今はタキシードを着た客引きが店先にぎらりと並ぶ異様なソープ街。黒塗りの車で客を送迎する高級店がすらり。見返り柳どころの話ではない。何か風情が残っていないかと裏道を通ると、さらびやかな表通りと裏腹にいかにも下町の光景。狭い道で女の子が無邪気ボール遊びをしていた。生活臭を隠すというのは大変な事である。

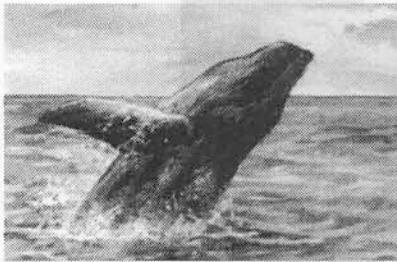
山谷と同じく、この風俗街も今や完全に浅草文化とは切り離されてしまっている。逆に言えば、浅草は健全な観光地になり果ててしまつたと言う事だ。

俗界は俗界で、俗界らしい混沌さを失いかけている。俗界は人の欲望の溜まり場でなければならぬし、本来それは秩序正しいものではない。迷路のような街が俗界であるべきである。けれど、今やそれぞれがそれぞれの得意分野で特化し、秩序正しく小じんまりと整理され、そして閉鎖されている。ワクワクするような街は今や残念ながら多くは見当たらない。人に宽容な街も残念ながらあまりない。それが近代化と云えばそれまでだが、どこか空しく、情けない。

東京はそうやって、毎年冬に人を安易に殺す。

夕暮れが早い。千束通り、入谷、下谷と抜け、鶯谷の駅から帰路に着いた。





おきなわ旅日記 ～与那国到着～

恩田美代子

朝、民宿の泊まり客から「行ってらっしゃい」と見送られ石垣島を発つ。与那国島へ向かう船は小さく、最初甲板で近くの竹富島や西表島は眺めていたが、外洋へ出た途端揺れが激しくなりいっきに船酔いが始まり、船内で毛布にくるまり眠る。4時間後、もうすぐ着くよの放送に表に出ると、デーンと与那国島が目の前に。かっこいい。荒波を受け、削り取られた岩肌が立ちはだかり西の果ての島という感じ。港に近付くにつれ、水の透明度に驚かされる。とにかく青い。下船し、港で漁業を営む人に安宿がないか尋ねると、歩いて2分もかかる小さな民宿を教えてくれる。81才のおばあが一人で経営している！荷をほどき散策へ。坂道で、リヤカーを引きながら全国を回っているキリスト布教者のおっさんに逢う。30年前、奥さんが亡くなり一人ぽっちになったのをきっかけに始めたのだと言う。笑顔は優しいけれど、表情の奥に厳しさのある人。この珍客を、遊んでいた子供達が取り囲み、あれやこれや面白そうにおっさんに話しかけている。無邪気で、一人も時計をしていない姿にはっとする。

夜、民宿のおばあお勧めの食堂へ同宿の学生達と足を運ぶ。旅人の間では有名な場所で、思ったより広くほっとする空間。ユキさんが食堂を営み、夫のマークンは与那国馬を育て、多くの人に馬を愛してもらおうと店を作っている。二人はもうかなり前に都心から与那国馬を求めてここに移り住んできた。この二人と店の助っ人と共に、心のこもったユキさんの手料理を食べている内に、気持ちが安らいでくる。たぶん皆、ごく自然に接してくれるからだろう。泡盛を飲みながらマークンと話す。「どんな時もやるしかない。実行あるのみ。そして勇気。能書ばかり言ってる人間は駄目。」いつも楽しいことをしていたいけれど、苦手な農作業もしているというので何故かと問うと、「生きるために」と。気持良く酔っ払い外に出ると、しーんという音が聞こえるような闇夜が。

意見広告

ホームレス救済と国家財政再建のために くみんなで助け合える日本国を建設しよう！

- 「宗教団体」は、お布施、お賽銭、献金等の一部を国家に寄付しましよう。
- 「政党」は、献金や政治パーティで集められた資金の一部を国家に寄付しよう。
- 国や都道府県に対してお願ひします。寄付国債、寄付公債を発行して下さい。
- すべての国民に訴えます。収入印紙（国）、収入証紙（地方）を購入し、廃棄しよう。
- 年商3,000万以下の事業者も消費税を納めよう。
- 年末調整、確定申告の際に、生命保険、火災保険等の控除を辞退（申告しないこと）しよう。
- 政治家（特に国会議員）は命がけ、財産がけで国会活動をしよう。
- 宗教指導者は、自分の宗教を信じる者ばかりでなく、「全ての人々」の幸福を考えながら活動して下さい。
- 特に大富豪の方々の御協力をお願いします。
- ホームレスの人々にも郵便が届くように、規定料金プラス・アルファ貼付（切手）運動を提案します。

2001.11.16. 五瀬四郎

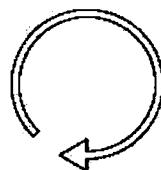
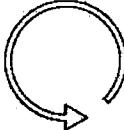
不許複製

路上文芸総合雑誌「露宿(ROJUKU)」第16号2002年1月1日発行(隔月刊)
〒170-0014 東京都豊島区池袋1-14-5-13 ロジカル編集室

はり師いが丸の

肝心かなめ

はり師いが丸



野宿を経験した仲間の話を聞く。寒かった冬のこと。辿り着いた駅の構内が暖かかったこと。ボランティアの人からもらったおにぎりがうれしかったこと。ひとつひとつ噛み締めるように語られるそれらの話を、同じ路上の風の冷たさを、痛いほど知っている仲間たちは、静かに頭をふりながら聴いている。

同じ苦しみを経験した仲間との出逢いは、自分が受けた傷を、いくしみをもって癒そうとする気持ちを与えてくれる。痛みを知っている人がもたらしてくれるやさしさとは、そういうものなのかもしれない。喜びは一瞬で、はじけた瞬間から、その感情はあたたかく消えていく。けれども悲しみは、どこまでも、いつまでも染み渡り続ける。「人生の底には悲しみが流れている」は誰のセリフだったか忘れたけれど、悲しみを通じて、人と心が符合したことを知ったとき、私はもう十分だと思う。やっていけるとも、生き抜かねばとも、そこで思えるわけではないけれど、底に流れる藍の色の中に佇む自分をようやく受け止めることができるようになる。

幼いころ、テレビでプロレスや相撲の中継を見て、の人たちは痛くないから、あんなことができるのだと思っていた。働き続けること。子供を育てあげること。生き続けること。昔から誰もがやって来ているそれらのことが、こんなにも容易でない作業だということは、そんな子供に想像できる筈がなかった。虚無感や他人を推し量る力の乏しさから、なぜ生きなければならないのかという問いを投げかけた記憶は、私にある。

今年は東京に来て十年目の年だった。その毎日は、夜間沈んでいた、體えた都会のにおいが揺れ動き、鼻をつくことから始まる。大陸の地平線や大海原の朝焼けから始まる日々とはなんと遠いことか。にもかかわらず、生命の表と裏にくつづいて離れない喜びと悲しみを、ちぎれるような想いを重ねながら知ってしまったのは、間違いなく、この街だった。

身を持っては知らない路上の話を人に伝える機会があるとき、私はそれを「つらさ」や「苦しみ」と表現する。身を持っては知らないことを「悲しみ」とは呼べないし、「悲しみ」なのかどうかもわからない。けれども、心をたゆたわせ、愚かさに何度も顔を手で覆いながら、人を求め、人としがらみ、人に苦しみ、それでも人を求め生きることで、同じ人として、己の中から生まれる想いから、心を寄せることができるようにになった、と思う。

それでも深く皺を刻んだ「先輩たち」には程遠く、あと十年経っても、私はきっと、もしくは今以上に、もがいでいるに違いない。



新譲年賀

旧年中は格別のご愛顧をいただき誠にありがとうございました。本年も何卒ご愛顧のほどお願い申し上げます。

露宿は創刊号以来「仲間(路上生活者、元路上生活者や路上に関わる人々)の表現の場の提供」というスタンスを一貫して守り続けています。路上から見えたもの、考えたものを何の説明もフィルターもかけずにそのまま雑誌にする事。画一的な解説だらけの社会の中、こういう不器用な雑誌が必要だと思ったからです。幸いにして様々な人々に支えられ露宿も号を重ねる事が出来ています。今年も初心貫徹。おもねる事なく自由な表現の場を提供し続けたいと思います。

今年から露宿の発行日が変更します。
今後、奇数月の1日発行となります
ので宜しくお願ひ致します。

次号17号は3月1日発行予定です。

原稿締めきりは2月3日必着にてお願ひします。

[露宿定期購読の御案内]

路上文芸総合雑誌「露宿」はもちろん全国の本屋では売っていません。毎号確実に読者のお手元に届けるために当方では定期購読を承っております。

定期購読8回分 5000円(郵送費込み)

定期購読4回分 2500円(郵送費込み)

一回ごとの購入でも大歓迎。一冊送料込みで660円となります。その場合は御面倒でも継続購読を連絡して下さい。

申し込み方法

郵便振替用紙(00160-6-190947ろじゅく編集室)に定期購読もしくは継続購読とお書きになり、住所、氏名を明記の上送金して下さい(発行ごとに郵送します)。尚、郵便振替の他、切手での受け付けもしております。FAX、メールにても注文承り中。

まとめ買いはお安くなります。

2冊以上は送料無料、5冊2000円、10冊3500円、50冊15000円(いずれも送料込み)となります。

編集後記

新春うららかにあけましておめでとうございます。また昨年中はたいへんお世話になりました。皆様どんな新年をお過ごしでしょうか?

私は今宵も空を見上げて、

「寒空に ぱっかり浮かぶ 冬の月

君見る月は 笑うか?泣くか?」

などと一人言。今年は微笑む月をたくさん見たいもの。とりあえず露宿片手にお屠蘇で体を温めて心も一緒に温かく。。。今年も露宿をよろしくお願ひします。(お)

露宿ペン俱楽部短信

新春とは云うものの、寒風吹きすさぶ厳冬です。健康に留意し、そして助けあいながら、本当の春を迎えるべきだと思います。

お馴染み富士森和行さんの本が刊行されました。『新宿ホームレスの歌～「放浪歌人」の70余年』(朝日新聞社)です。なかなか味わい深い本です。図書館に注文したり、お金のある方は購入し皆んなで応援しましょう。

露宿バックナンバー

在庫一掃セール好評継続中!

露宿バックナンバーは創刊号、3号、5号、6号、7号、8号、9号、10号、11号、12号、13号、14号、15号の在庫があります(2号、4号は売切です)。限定1000部発行の印刷物ですのでお求めはお早めに。バックナンバーに限り1冊300円(3冊以上は送料無料)での一掃セールをしています。お求めはろじゅく編集室まで、郵便振替用紙、FAX、TEL、メールなどでご注文下さい。(尚、在庫が切れた場合はご容赦下さい)。

Rojuku

定期購読大募集

♪露宿を置いて下さるお店・スペースを探しています。お気持ちのある方はぜひご連絡下さい。まとめ買いの場合は、とてもお安くなります。

♪露宿では広告を募集しています。又、投稿お便り、大歓迎です。下記住所のほか、「ろじゅく編集室専用ファックス」03-3981-6746がございます。「露宿」の注文・原稿送付・広告申込・お便り等、何にでもお気軽にご利用下さい。

「ろじゅく」

この雑誌は、路上生活者の方達が読み、書き、表現をする場を提供する為、つくられました。一冊でも多く雑誌を印刷し、路上生活者の方に手渡したい思いと、利益が出れば炊き出しのお米代にしたい為、心苦しい限りですが、多くの理解とご支援をお願い致します。皆さんのお気持ちに届く、熱く丁寧な雑誌づくりを目指します。

購読費・スポンサー費送り先

郵便振替口座

00160-6-190947

「ろじゅく編集室」

露宿 ROJUKUはココで買えます。

- ◆模索舎 東京都新宿区2-4-9 TEL/FAX 03-3352-3557 ◆TACO ché 東京都中野区中野5-5-2-15中野ブロードウェイ3階 TEL 03-5343-3010 FAX 03-5343-4010 ◆スペースかぼす 東京都新宿区大京町3新大京マンション304号 TEL 03-5367-5666 ◆新宿中央公園ボケットパーク（毎日曜午後6時から8時まで）TEL090-3818-3450 ◆城西教会 東京都渋谷区西原1-19-3 TEL03-3466-0445 ◆山谷労働者福祉会館 東京都台東区日本堤1-25-11 TEL/FAX 03-3876-7073 ◆石手寺 愛媛県松山市石手2-9-21 TEL 089-977-0870 ◆ぐりん・びいす 宮城県仙台市青葉区立町18-12-104 TEL/FAX 022-213-6739

路上文芸総合雑誌「露宿 (ROJUKU)」第16号 2002年1月1日発行 (隔月刊)

主宰・笠井和明 編集/発行・ろじゅく編集室 〒170-0014 東京都豊島区池袋1-14-5-13

TEL/FAX 03-3981-6746/090-3818-3450 (笠井)

Eメール・rojuku@d9.dion.ne.jp URL・<http://www.d9.dion.ne.jp/~rojuku/>

郵便振替口座 00160-6-190947 加入者名「ろじゅく編集室」

販売協力・新宿連絡会、露宿ベン俱乐部 印刷・株式会社ラジオグラフィー